

尻屋磯根資源調査

(要 約)

高橋 進吾

目 的

尻屋地先の磯根資源の状況を把握し、造成漁場を含む地先漁場の管理に資する。

材料および方法

平成 19 年 6 月 5 日に、太平洋に面する尻屋地先に 15 調査線を設け、各々の水深 2.5m、5m、10m、15m、20m にある計 68 調査点に潜水し、海藻を 50cm または 1m 四方の枠で 1 枠分、底棲動物を 1m 四方 2 枠分採取し、種ごとに個体数と湿重量を求めた。

調査線 1、4、7、9、13、14 から採取されたキタムラサキウニのうち、漁獲サイズにある計 99 個については、生殖腺重量を測定し身入りを求めた。

結果および考察

2 年目マコンブ

2 年目マコンブは、前年度と同程度の密度で生育し、調査点平均では 7.6 本/m²となった。水深別にみると、15m 以深では皆無であったが、2.5m で 29 本/m²と最も多く、次いで 5m で 12 本/m²、10m で 7 本/m²となった。この結果から、本漁期のコンブ漁獲量は前年と同程度と考えられた。

1 年目マコンブ

1 年目マコンブは、前年より大幅に減少し、調査点平均では 4.2 本/m²となった。水深別にみると、2.5m で 14 本/m²と最も多く、次いで 15m で 6 本/m²、5m、10m で 3 本/m²となった。ここ 10 ヶ年では平成 16 年に次ぐ低い値となり、来年のコンブ漁獲量は大幅に低減することが懸念された。

キタムラサキウニ

キタムラサキウニは、全体の 87% に相当する 59 地点から採取され、平均の生息密度が 3.2 個/m²、現存量が 316 g/m²となった。調査点全体の 80% から平均 2.9 個/m²、270 g/m²の生息が確認された前年に比べ、個数は 6%、重量は 17%それぞれ増加した。

10 年間の平均密度 (2.4 個/m²、333 g/m²) には大きな変化がなく、依然高い密度で生息する状況が続いている。また、キタムラサキウニは 100 g/m²以上の密度で生息する場合、環境条件によってはマコンブが発生・生育しにくくなることが知られている。キタムラサキウニの食害による磯焼けの発生が持続されることが今後も懸念されるため、引き続きその生息状況を注視するとともに、漁獲等により適切な密度管理を行う必要がある。

発表誌:平成 19 年度尻屋磯根資源調査結果報告書.青森県水産総合研究センター増養殖研究所,
平成 19 年 7 月.